

第 154 号

2019 年 2 月 5 日発行

TEL 0193 - 42 - 2111

FAX 0193 - 42 - 3855

発行 大槌町議会

# 議会報

町の復興へできることを！  
(県立大槌高等学校 復興研究会)



## 主な内容

- ・年頭のあいさつ ······ 2
- ・審議した議案 ······ 2~3
- ・一般質問 ······ 4~9
- ・委員会等活動報告 ······ 10
- ・復興へのメッセージ ······ 11







東梅康悅議員

学校給食費増額部分は行政負担すべき

## 学校給食費の改定について

食材を供給する」とで安心・安全な給食を提供する。

の中で厳しい給食費の状況が話し合われ、PTA代表の方々から増額への理解をいただいた。

ある。行政連絡区域の「ミニユーティ形成の状況や業務負担等の現状に合わせ定数の見直しを検討する必要があり、負担が増

学校給食費の改定について  
【問】学校給食費の増額改定は被災児童、生徒就学援助の人が全体の50%を超える状況下では無理があると考える。就学援助の期間中は、行政が増額部分を補うべきと考えるが。

【問】給食費の改定はどこで決められるのか。

【問】行政連絡員の職務は多岐にわたり行政と住民のつなぎ役の一端を担っている。大震災以降、文

分割し、新たな行政連絡員を配置できるよう努めたい。  
報酬については非常勤特別職であり、条例で年

A white delivery truck is parked in front of a large, modern building with a vertical wood-paneled facade. The truck's side panel has the text "大谷学園" and "大谷中学校" printed on it. The building features large glass windows and doors, and there are other vehicles and people visible in the background.

給食の配送車

**答**（平野町長）  
来年度からの給食費の  
増額改定は、保護者へは  
お知らせしたが、再度検  
討を重ね、増額改定を行  
わないことで現在調整し  
ている。

【問】学校給食運営協議会の中での保護者の考え方どのように反映されているのか。

書類の配布物も多くなり担当地区の世帯数にも大きな変動があり職務の負担増が危惧される。行政連絡員の定数をどのように考へているのか。また報酬は適正のものか伺う

額23万4千円以内と定められており、配布部数などを考慮して支給していく。

数地区は沢山、桜木町、吉里吉里4である。30世帯が、区割、複数数の一定の基準と考えられるが地理的条件、ミニユーティ形成の状況考慮しなければならぬ

への処遇は。

# 町をPRする最大のチャンスをどう生かすのか

## 観光交流協会と連携しオール大槌で取り組む



芳賀 潤 議員

**組織改革に伴う町の課題と取り組みについて**

【問】今回の改革は住民サービス（縦割り行政の弊害等）の改善を意識しているのか。また、目標とする職員数120名体制までには時間要するが、組織の統合的な改革は今後も順次行われていくのか。

【答】（平野町長）

組織体制及び職員数は震災前の体制を意識していることは事実であります、限られた職員数で最大限の効果を發揮するために、「人事・組織ヒアリング」で業務進捗の把握を行い、柔軟性のある対応を意識し、計画を

実行性のある施策の重視化と、それを実現できる組織体制の構築を目指していくことを計画しているところであり、結果として住民サービスにつながるものと考える。

実施していく。

組織の統廃合について

は、当該計画をベースとして進めるとしているが、各行政課題に対し実行性のある施策の重視化と、それを実現できる組織体制の構築を目指していくことを計画しているところであり、結果として住民サービスにつながるものと考える。

【答】（平野町長）

は、当該計画をベースとして進めるとしているが、各行政課題に対し実行性のある施策の重視化と、それを実現できる組織体制の構築を目指していくことを計画しているところであり、結果として住民サービスにつながるものと考える。

【答】（平野町長）

は、当該計画をベースとして進めるとしているが、各行政課題に対し実行性のある施策の重視化と、それを実現できる組織体制の構築を目指していくことを計画しているところであり、結果として住民サービスにつながるものと考える。

【問】近隣市町村の地域おこし協力隊は、観光交流分野や情報発信、移住定住増進の分野に配置し、成功事例を生んでいるが、当町で制度導入の考えは。

【答】（平野町長）防災訓練・消防団との連携について

【答】（平野町長）

【答】（平野町長）



澤山美惠子議員

## 避難施設のない地区への整備計画は

各地区の避難施設につ

各地区の避難施設について  
〔問〕（仮称）三枚堂大ケ  
ロトンネルの出入口付近  
への避難施設整備の検討  
状況について伺う。

各地区の避難施設について  
【問】（仮称）三枚堂大ケロトンネルの出入口付近への避難施設整備の検討状況について伺う。

【答】（平野町長）  
「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく基礎調査の早期実施を県へ依頼している  
【問】町内の避難施設のない地区への整備計画は。

沢山・金沢・吉里吉里・浪板地区に町指定避難所がある。その他の地区については、集会施設はあるものの、土砂災害危険箇所や洪水浸水想定区域に含まれていることから、住民の安全・安心を第一に考え、町指定避難所として指定していない。

しかしながら、指定避難所が少ない状況であることから、県が行う調査結果を基に、安全が確保される箇所については、避難所指定を行っていきたいと考えている。

ついて、各施設の整備状況と今後の予定を伺う。

【答】(平野町長) 東京大学が整備した施設であり、事業の終了に伴い当該施設を地域密着型通所介護事業所として利用する場合、施設基準等を満たしていることなどを指定の条件になる。

また、地域密着型通所介護を提供する事業者は、その事業を運営するに当って地域住民との連携及び協力をを行う等の地盤との交流を図る必要があるため、地域住民に十分な説明を行い、地域から理解を得る必要もある。

諸条件を満たす事業者から申請があつた場合、希望する事業者からの申請は検討するので、実施を

いきたいと考えている。

今後、買い物が困難な方が生じた場合には、課題解決に向けた取り組みを推進していく。

【答】(平野町長)  
町指定避難所は災害種別に応じて16カ所を指定してお  
り、そのうち小鎌・臼沢・町方・安渡・

## 高齢者の居場所づくり について

【問】大ヶ口地区にある東京大学のモデル事業実施施設を地域密着型通所介護施設として利用できぬいか伺う。

諸条件を満たす事業者から申請があった場合、は検討するので、実施を希望する事業者からの申請・協議には隨時応じる。

らスーパー等で買い物を行つており、21%が家族等による購入、6%の方が移動販売を利用してい

ともなる大槌駅を起点として時計回り、反時計回りを交互に運行する計画となつてゐる。

# 学校跡地の利活用のあり方は

地域振興を図る施設や計画を検討していく



阿部三平議員

### 学校跡地の利活用について

【問】学校跡地利用を検討していたが、東日本大震災が発生し復興最優先できた。復興後の学校跡地利活用や地域振興をどのように進めるのか。

【答】(平野町長)

旧小鎌・金沢小学校は、50年以上が経過し、特に小鎌小学校は老朽化が著しく転用は難しい。復興後財源確保を図りつつ、小鎌地区、金沢地区の地域振興を図る施設の事業計画を検討していく。

【問】花輪田地区中ほどの住環境について

排水路が、整備され綺麗になったが夏場に異臭が発生している。小鎌川への樋管樋門が完成すれば既存の取水口を改修し通水すれば、よりよい自然環境が生まれると考えるが。



旧小鎌小学校

### 【答】(平野町長)

町方地区から安渡・赤浜地区含む町内地区の一部は、復興事業と社会資本整備総合交付金で実施。浪板・吉里吉里地区は漁業集落排水処理事業で実施。生井沢花輪田・下寺野・臼沢地区は、現在事業計画区域外で浄化槽の整備補助を進めている。

今後は水環境整備改善を図り快適な生活環境に努める。

【答】(平野町長)

町道は積雪15センチメートルで除雪車出動。要請あれば融雪剤提供。

緊急であれば確認の上業者に指示し維持補修に対応している。林道は施業者、農道は受益者で管理、困難な大規模損壊は災害復旧事業として対応する。

【問】町道小鎌線、新山方面及び徳並長井方面は、道路維持管理について

【答】(平野町長)

道路維持管理について

【答】(平野町長)

現在、取水先にかんがいを行う水田が見受けられず農業設備として未利用であり、今後改修予定はない。しかし、環境保全、教育や観光資源として認識していることから、地区の皆様と話し合いながら各種施策を進める。

### 下水道整備について

【問】震災復興が最優先であるが、町方近郊の生井沢花輪田・下寺野・臼沢地区にも下水道管を延長し文化的な生活ができるよう下水道整備を望む。



花輪田地区樋門工事

積雪時単線路で狭隘なことから緊急車両も通行に難儀する。道路は積雪と溶解・凍結により損傷し、路肩やのり面の崩れが発生する。関係者と連絡を密に適切な対応を望む。



阿部俊作議員

## 給食無料で子育て支援を

### 給食費値上げはやめた

#### 防災について

【問】防災において、活動リーダー育成には防災士資格の取得が有効と考える。役場職員全員・地域・企業にも防災士を配置するように検討してはどうか。

町内備蓄の食料や災害対応機器の現状と管理状況を尋ねる。

【問】子ども子育て支援について

食糧・水・生活用品・発電機などは、町指定避難所や公共施設等に分散備蓄されている。保存期間一年未満となつたものは、防災訓練等の際に配布し、防災意識高揚を図る。

#### まちづくりについて

【問】大槌ならではのまちづくりは、総合的に町全体を見渡せる行政職員のアイデアと意見が自由に話せる庁舎の雰囲気づくりが大事。

#### 第9次総合計画の基本理念

現状の課題と取り組みについてと第9次総合計画の基本理念について今までの行政との比較について尋ねる。

【答】（平野町長）防災士取得は地域防災力の向上の一つと考える。現在64名が防災士登録され、うち町事業で養成した49名は、町防災サポートとして、今後の活動について再構築したい。町内に備蓄されている

#### 【答】（平野町長）

義務教育学校の給食の無料化と大槌高校への給食提供を考えては。

#### 【答】（平野町長）

給食費の増額改定は行わないこととして調整中。国への交付金が続く2020年度までは援助する。

大槌高校への給食提供

【答】（平野町長）町を取り巻く厳しい環境を乗り越え、誰もが安

心して暮らせるまちを実現できる計画となるよう、現地で検討する。



大槌町学校給食センター

## 第9次大槌町総合計画の進め方は

町民との協働で生業の創出に取り組む



佐々木慶一議員

**【答】(伊藤教育長)**  
「ふるさと科」の導入目的は、命や人の大切さを受け止め、逆境に負けないための「生きる力」や、大槌を誇りに思い大槌を復興しようとする「ふるさと創生」の気持ちを育むこと。

「ふるさと科」の学びにより、ふるさとに愛着や誇りをもつ児童・生徒が育つてきている。

**震災後の町の教育環境について**  
【問】大槌町の小中一貫教育の特徴の一つでもある「ふるさと科」の導入目的及び子どもたちの大槌町に対する気持ちの変化は。

**【問】大槌町全体で捉えた場合、小中一貫校に留まらず大槌高校への教育環境支援のあり方について、町としての取り組みに関する考え方や方針は。**

**【答】(伊藤教育長)**  
大槌高校と町で大槌魅力化構想の場を立ち上げ、大槌ならではの魅力的な高校教育の実現を目指す。

そのため、高校への人的な支援や魅力的な力リキュラムづくりをはじめ、中高連携や学習支援、放課後の高校生の学びの場の保障等を検討していく。



「ふるさと科」の特徴を持つ大槌学園

**【答】(平野町長)**  
「発展」というキーワードは総合計画において大切な視点と考えている。町民アンケート結果から「生業・仕事」が最も重要と考えている。



防集エリアに建設された水産加工工場

**第9次大槌町総合計画について**  
【問】第9次大槌町総合計画においては、復興計画でなしえていない「発展」を目指した取り組みとすべきと思うがいかがか。

**【問】復興途上である大槌において、大槌に戻りたい、大槌で生活したい、大槌で生活したい」というリターン者対応は重要である。しかし、そもそもふるさと大槌に愛着を持ち大槌で生活したいと考えている高校卒業生が地元で生活できるような生業の創出という視点も最も重要な視点ではないか。特に家計を支えるだけの収入が得られるような仕事の場を作っていくことが最も重要な視点となる。つまり今後の大槌の「発展」のためには、第9次大槌町総合計画において生業の創出について重点的に取り組んでいくことが重要と考えている。**

**重要課題と考えるがい**

**【答】(平野町長)**  
平成30年5月に実施した町民アンケートでも「仕事」についての重要度が高く、満足度が低い結果となっている。

つまり今後の大槌の「発展」のためには、第9次大槌町総合計画において生業の創出について重点的に取り組んでいくことが重要と考えている。

## 常任委員会

### 宮城県東松島市・女川町を視察

平成30年10月30、31日

察してきました。

と2日間にわたり総務教民常任委員会で、大槌町で予定している（仮称）鎮魂の森の中に設置を検討している慰靈碑について、宮城県の2市町を視察してきました。慰靈碑についても視察してきました。



東松島市震災復興伝承館



東松島市震災慰靈碑

を合わせることができるように立地条件であります。現在、名前は刻んでほしくないという方も多いのですが、将来的にこの方々が名前を刻んでほしいという気持ちに変わった場合でも対応できるように、そのスペースは空けているというような配慮をすることを伺いました。

両施設とも、亡くなられた方々

され、今後差し替えが容易にできるような形となつておりました。やはり銘板を見たときには亡くなつた方の名前を刻むことが非常に大切であるということを感じました。

2日目は、女川町にある震災慰靈碑について視察しました。女川町の慰靈碑は役場の敷地の中もあり、女川町東日本大震災慰靈碑ということで、石に名前が刻まれています。石面に刻銘していることで非常に重厚感があり、設置しているところも役場ということもあって、住民の方が気軽にというか容易に参拝であつたり、手

の名前をしっかりと刻み慰靈をするという形式でした。当町においても、銘板を整備するということで計画をしていただきたいと思いました。



女川町震災慰靈碑



女川町担当者からの説明の様子

# 復興へのメッセージ～地域の声～

東日本大震災大津波から7年10カ月の月日が経過しました。

地域の声として、町内会長から復興へのメッセージをいただきました。



沼内町内会 会長

田口 満さん



沢山町内会 会長

三浦 文雄さん

### お互いを思いやり、住みよい地域に

沢山地区は震災により  
約半数の世帯が被災しま  
した。7年9カ月が経過

いた。現在は地区で暮ら  
していく者同士が顔の見え  
る関係を築き、新旧会員

や子供から高齢者まで世  
代を超えて助け合っていく

風土を醸成することを目指し、さまざまな交流活動を実施しております。

一時半減した町内会の会員も新たに住居を構えた方々の加入により、ほぼ震災前に戻っています。

地域住民が安全で安心して暮らし、この日当たりのよい沢山に住んでよ

りたと思える時が真の

### 住みやすい環境づくりを

震災後、沼内町内会として発足して今年で4年目になります。震災前からの沼内地区住民と震災後に町方から移住してきた住民とのお互いの交流や意志疎通を図るための活動として年2回の草刈共同作業を行っています。

この度、地区住民の協力のもと町への要望、議会への請願がない、集会所が着工の運びとなりました。念願だった地域住民が気兼ねなく集まる場所、子供たちが集い

ての沼内集会所の完成を楽しみしております。



草刈共同作業の様子



夕涼み会の様子

復興だと思って活動していきます。

# 表紙写真



# 表紙タイトル



1月8日に大槌高校の生徒さんが、「復興研究会・キッズステーション班」の活動として、町内5カ所の子供施設で、子供たちと遊んだり、勉強を見てあげたりする復興ボランティアを行っています。表紙写真は、「地域共生ホームねまれや」さんで活動していた生徒さんと子どもたちの様子です。



今回の表紙タイトル

いなと想こせす。

「おおつち」は、大槌高等学校1年生の六串紗綺さんによる書いた書き込みです。デザインに込めた思いなどを伺いました。

◆どんなテーマで描いたものですか。

◆大槌町がどんな町になつたらしいと思いますか。

◆大槌町のどんなところが好きですか。

◇自然が豊かなところで、星空が見えるのがとても好きです。

## 定例会・臨時會議員出欠表

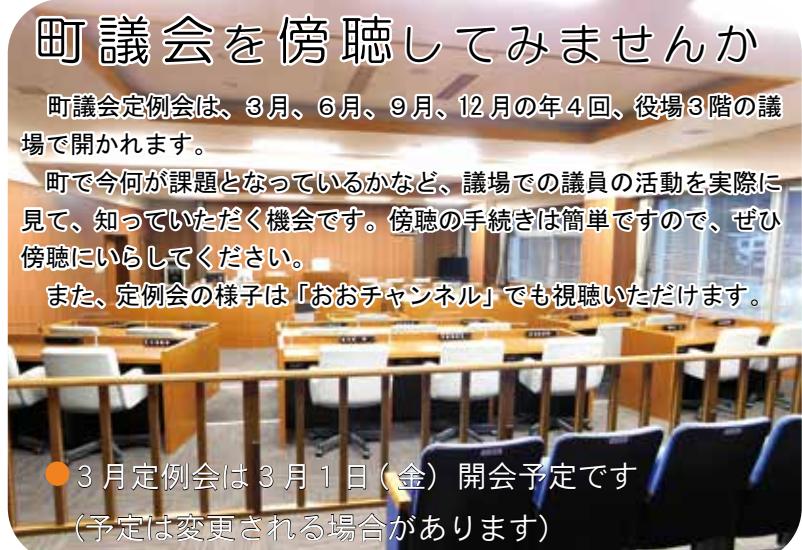
議席番号	議員氏名	第4回定例会		第2・3回臨時会	
		(12/7～12/13)		(10/30・11/12)	
		出席	欠席	出席	欠席
1	佐々木慶一	4	0	2	0
2	下村 義則	4	0	2	0
3	澤山美惠子	4	0	2	0
5	阿部 三平	4	0	2	0
6	小笠原正年	4	0	2	0
7	東梅 守	4	0	2	0
8	阿部 俊作	4	0	2	0
9	東梅 康悦	4	0	1	1
10	及川 伸	0	4	2	0
11	金崎 悟朗	4	0	2	0
12	阿部 義正	4	0	2	0
13	芳賀 潤	4	0	2	0
14	小松 則明	4	0	2	0

町議会を傍聴してみませんか

町議会定例会は、3月、6月、9月、12月の年4回、役場3階の議場で開かれます。

町で今何が課題となっているかなど、議場での議員の活動を実際に見て、知っていただく機会です。傍聴の手続きは簡単ですので、ぜひ傍聴にいらしてください。

また、定例会の様子は「おおチャンネル」でも視聴いただけます。



と考えます。少子高齢化が顕著であります。少子高齢化が女がどこにあつても健康で暮らせるよう地域の要望を考慮しつつ、皆がとともに生きる社会に少しでも寄与していきたいと思います。

と考えます。少子高齢化が顕著であります。少子高齢化が女がどこにあっても健康で暮らせるよう地域の要望を考慮しつつ、皆がともに生きる社会に少しでも寄与していきたいと思います。

会報編集特別委員会  
委員長 佐々木慶一  
副委員長 阿部 俊作  
委員 東梅  
委員 阿部 三平  
委員 下村 守  
委員 義則

編集後記

大槌町議会報 154 号 平成 31 年 2 月 5 日

12